



都市への思い新たに Urban Reaction by New Comers

—研究室に新メンバー！—
—Doctor & Master Students—

この秋から都市デザイン研究室に新しいメンバーが加わりました。留学生 (博士課程) 2 名と、社会人大学院都市持続再生学コース (修士課程) の 5 名の方に自己紹介をして頂きました。

名前 / Name

- ① 出身地 / hometown
- ② 趣味・特技 / hobby & speciality
- ③ 好きなまち・行ってみたいまち /
- ④ 座右の銘 / motto
- ⑤ 都市デザイン研究室に来たきっかけ
/Why did you come to UD Lab?
- ⑥ 研究室生活に向けての意気込み
/What do you want to do in UD Lab?

博士課程 / doctor course

リー ヨク ライ Lee Yoke Lai

- ① Malaysia
- ② Travelling, collecting stamp, jogging & painting
- ③ Japan—Nagoya & Kyoto, China—Lijiang & Beijing
- ④ Always be yourself...and make life simple. The failure is the key to success!
- ⑤ I found the lab's professors are expert in urban conservation, which is related to my research. To engage a network for education/research between Urban Design Lab and UTM Malaysia.
- ⑥ participate in workshop/seminar, conference & other related program to UD Lab.



博士課程 / doctor course

宋 知苑 Song Jiewon

- ① 韓国
- ② 旅行、写真、街歩き
- ③ 今のお気に入りの場所は飯田橋駅と永田町駅間の外堀通り
- ④ 継続は力なり
- ⑤ Columbia 大学の図書館で西村先生の「都市保全計画」に出会ったことがきっかけ
- ⑥ 博士論文完成!



修士課程 / master course

玄田 悠大 Yuta GENDA

- ① 兵庫県神戸市
- ② 庭園・寺院めぐり、舞台芸術鑑賞 (最近仕事で関わるようになり、それから頻繁に)
- ③ 京都、カサレス (スペイン)、青森、ミャンマー
- ④ 人事を尽くして天命を待つ
- ⑤ まちにおける文化的な要素やハードとソフトの関連性に興味があったこともあり、西村研で研究をしたいと以前より思っていました。
- ⑥ 仕事の都合上、まち大を4年で修了するタイムスパンを進めています。焦らずコツコツ積み重ねていければと思いますので、よろしくお祈りします。



修士課程 / master course

大木 淳 Jun OHKI

- ① 静岡県藤枝市
- ② 旅、読書 (ミステリー、歴史等)、どこでもすぐ眠れること。
- ③ 近頃ようやく自分の生まれ育ったまちが良いと思えるようになりました。世界の古文明発祥地を巡ってみたい。
- ④ 話せば分かる。
- ⑤ これまでの自身の経験や技術を活かせるジャンルだと思います。
- ⑥ 都市の成立する背景、仕組みがある中で、デザインの持つ意義、役割について考えてみたいと思います。



修士課程 / master course

谷中 修吾 Syugo YANAKA

- ① 静岡県
- ② 遊牧的な旅 (世界 30ヶ国を遍歴)
- ③ 月 (土地 1 エーカー所有)
- ④ SURF THE WORLD!
- ⑤ 西村先生と窪田先生の講義を聞いての好印象
- ⑥ 外資戦略コンサル出身 x 国際 NGO 出身 x 松下政経塾出身で、地域の課題を解決するソーシャルビジネスの創出を専門としています。研究室で新たな学びを得ながら現場の活動に広がりをもたせたいと思っています。



修士課程 / master course

末松 勇 Isamu SUEMATSU

- ① 埼玉県ふじみ野市
- ② 旅行、音楽鑑賞、エアロビクス、スキューバダイビング
- ③ 行ってみたい場所はグランドキャニオン、北欧のオーロラが見える所、パリ。住んでみたい都市はホノルル、シドニー、ジュネーブ。
- ④ 止まない雨はないやで。
- ⑤ この1年間まちづくり大学院で、西村先生の都市の見方や窪田先生の大丸や鞆の浦のまちづくりについてのお考えやお話を伺いする中で、感銘や共感するところが随所にあり、ぜひ各先生方のご指導を仰ぎたく、当研究室を希望しました。
- ⑥ 研究室の平均年齢をかなり押し上げてしまいますが、向学心は若い時のままであると思っています。皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお祈り致します。



修士課程 / master course

谷 守弘 Morihiro TANI

- ① 東京都新宿区
- ② 散歩、旅 (最近行けてませんが)、音楽鑑賞、まちづくり
- ③ 地中海沿岸ローマ帝国時代からあるまち、スリナガル (インド)、ハノイ、大理 (中国雲南)、ウィーン、フェズ、逗子 (地元)、日本のまちはどこも好きです。
- ④ yes, only love can break your heart (Neil Young)
- ⑤ 都市 (場所) の歴史や文化、制度、かたちなどを包含する幅の広い視野をもってテーマを絞り込んでゆくことができそうに感じて、デザ研を選びました。もちろん西村先生、窪田先生を敬服しているからです。
- ⑥ 長期履修で3年間お世話になります。テーマは「郊外」



博士課程 / doctor course

若松 久男 Hisao WAKAMATSU



博士課程 / doctor course 江島 知義 Tomoyoshi EJIMA

先学期にまち大修士を修了された若松さん、江島さんは博士課程に進学されます。

新歓パーティー開催!

The welcome party for new students was held!



10月10日に行われた新歓パーティーについて、コンパ係のM1 福士からの報告です。

text_fukushi

10月10日 (水)、弥生キャンパスのアプルポアにて、10月から研究室の仲間となった留学生とまち大5期の皆さんをお迎えする新歓パーティーが開催されました。ご多忙の中、先生方やまち大の方々も参加していただき、貴重な交流の機会となったと思います。立食と歓談を楽しみつつ、新入生の皆さんの自己紹介タイムでは

個性豊かなお話や熱い意気込みをお聞きすることが出来ました。また、せっかくの機会ということで新入生以外の全員の自己紹介タイムも設けられ、普段顔を合わせる機会が少ないメンバー同士もお互いの活動を知ることが出来、とてもいい刺激になったと思います。12月の忘年会も、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。



▲個性豊かな自己紹介タイム



さわら昭和のくらしと記憶展 Memories of Sawara in Showa period

—佐原の大祭 秋祭り—
-Sawara great festival-

佐原の大祭に合わせ蔵で展示を行った佐原PJ。積み重ねてきたヒアリング調査や資料調査から「佐原のにぎわいと暮らし」をたどり、まちの中心部を流れる小野川に着目した提案も行いました。

text_matsumoto

佐原の大祭に合わせ、10月12日(金)から14日(日)まで「さわら昭和のくらしと記憶展」を開催しました。今年度の佐原PJは「佐原のにぎわいと暮らしの歴史をたどる」ことを目的に調査を行っており、今回の展示は地元の方々へのヒアリングや歴史資料から読み取れる明治から昭和後期の佐原を紹介するものです。掛け軸の年表(安東)・ヒアリングでのお話をまとめた聞き書き地図(柏原)・商業の変遷(松本)・小野川の歴史(越村・小笠原)といった、テーマごとに構成された展示パネルは、担当メンバーの個性が表れ見応え抜群のものになりました。(自画自賛!)

佐原が1年で一番にぎわう大祭の3日間だったこともあって、毎日多くの方が足を運んで下さったのはもちろんのこと、古い写

真や地図から思い出話に花が咲き、その場でヒアリング調査が始まることもしばしば…。また、調査の成果発表だけではなく、佐原のまちの中心部を流れる小野川の重要性に着目し、「現在の川沿いの空間をより地域に根ざしたものに」というコンセプトのもと、町家を「川の家」「小野川マルシェ」という地元住民向けの施設として活用する提案も併せて行ったため、来場者の方に広くご意見を伺う良い機会になったと思います。30分以上かけて隅々まで見てくださる方や「何回もじっくり見直したいから」と縮刷版を手にとって帰る方も多く、展示を通して伝えたかった「佐原の魅力」を来場者の方と共有している、という手ごたえを感じられたのが何よりも嬉しかったです。



▲大盛況だった3日間



▲築90年以上の蔵をお借りしました



▲昭和の佐原を振り返るスライドショー

プロジェクト報告



清水 Shimizu-project プロジェクト

text_omori

清水プロジェクトは、11月25日に開催を予定している企画「ミナトブンカサイ」に向けての準備に奔走しています。この企画は、倉庫群の存在を広く市民に周知するために、清水港日の出地区の切妻石造倉庫群の前面道路をお借りし、路面アートやジャズライブ、アートワークショップや出店、ライトアップなど、倉庫街で実現したら面白いと思うことを詰め込んだもので、大規模なイベントとして動き出しています。主催は静岡市ですが、都市デザイン研チームは全体のマネジメントや協力要請などを担当、メンバーは毎週清水に行き、企業や行政と折衝を進めています。アート全般は土屋先生率いる常葉学園大学造形学部が担当することに決まり、10月11日(水)、20日(土)には常葉の学生と現地見学・会議を行いました。少しずつですが企画が進んでいく感触に胸踊る10月でした。



▲常葉学園チームとの現地見学



▲平日に行われる荷役は賑やか

沖縄基地跡提案コンペ入選

窪田先生、黒瀬先生、M1 児玉・萩原・福士のチームの提案が入選しました。

M1 児玉 千絵

コンペ提出に先立って、8月には1泊2日の現地調査を行いました。普天間飛行場をはじめとする提案対象軍用地だけでなく、すでに返還され開発された新市街地や軍用地の地代収入を背景に整備された公共施設なども見学し、そのスケールの大きさに圧倒されるとともに、都市空間の背景にある政治経済社会の広範にわたる課題とその根深さを実感しました。「コンペに提出するために調査をするというよりむしろ、オキナワを知るためにコンペに参加する」という窪田先生の名言通り、私たちは沖縄という土地の現状に無知であるということに自覚もないほどに無知でした。この冬入選以上の提案の展示会やプレゼンなども予定されております。各提案者が沖縄の抱える課題に如何に向き合い、解決の糸口を示したのか、より多くの人に関心を持って頂けたらと思います。



▲キャンプ瑞慶覧内の米軍住宅



▲嘉数高台公園より普天間飛行場を見下ろす

編集後記

越村 高至

11月のイベントに向けて準備中の清水PJメンバーは最近週一のペースで清水に行っています。予算の関係でここしばらくは鈍行での移動ですが、往復で計6時間の旅。時々横を並走する(というか一瞬で抜かれる)夢の超特急(Shinkansen)を羨望の眼差しで眺めることもありましたが、鈍行であってもPC持参で座ることができれば、そこそこ時間を有効活用できるもんだなー、とマガジンの編集をしながら思いました。あれ、電池が切れそう……。

10月・11月の予定

10月25日~27日	鞆PJ現地調査
11月1日	都市工学科50周年記念会
11月2日	研究室会議
11月25日	清水PJ「ミナトブンカサイ」開催
11月27日	研究室会議

Information